

銀行のコスト削減例

グローバルな銀行間決済にリップルとXRP使用した場合のROI

2016年2月

序章

「リップルでネットワーク効果を生み出す」の中で、我々は、今日情報がウェブ上を簡単、安全に、世界中を移動するのと同じ様に、お金がウェブ上を移動する未来についての弊社のビジョンをお伝えしました。このような未来を我々は”価値のインターネット”と呼び、リップルはネットワーク効果を発起することで、この価値のインターネット発展に重要な役割を担うと信じています。現在リップルは、コスト効率が良い国境を越えた決済のための最新のインフラストラクチャーで流動性供給者と流動性需要者を結び、彼らが新しい利益のチャンスを追求することを可能にしています。デジタルな資産であるXRPは、スプレッドを軽減して厚みのある市場作りを促進してくれる有用なトレーディング手段です。このレポートでは、この概念について更に掘り下げてみたいと思います。ここでは、従来のシステムに対し、リップルで、またリップルでXRPを媒介資産として使用する場合で、国際支払いのプロセスがどのように違ってくるか比較してみます。グローバルな銀行間取引のための分散金融テクノロジーおよびデジタル資産に関する、業界初のROI分析について詳細を述べます。

国際決済インフラストラクチャーの現状

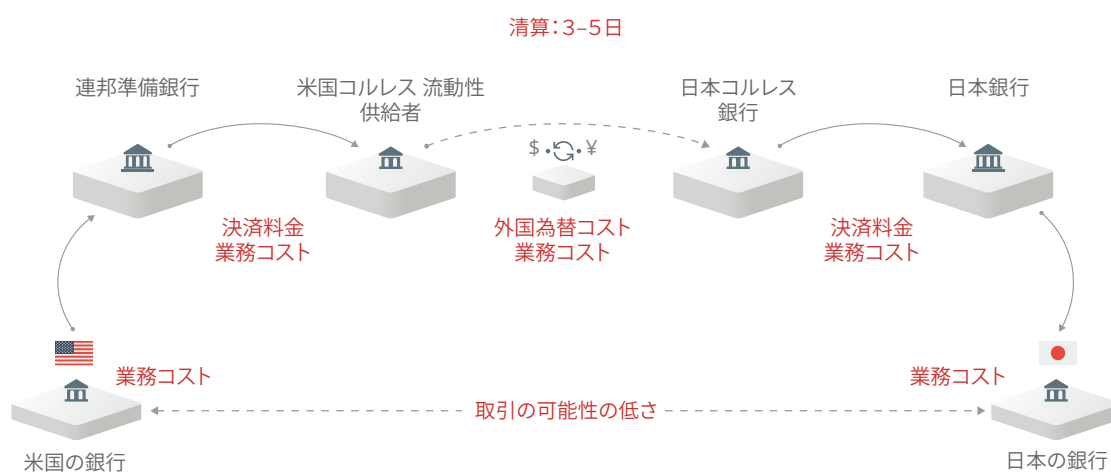
現在の国際決済インフラストラクチャーでは、お金がある決済システムから別の決済システムへ、数々の社内帳簿を通過しながら金融機関間を移動しています。これらの振替が、連携体制のレベルが低いシステム間で行われるため、資金清算に時間がかかり(しばしば3-5日間換金できない状態が続く)、エラーが発生しやすく(エラー率は12.7%以上に昇る¹)、コストも高くなります(世界の国際取引のシステム全体コストは1.6兆ドル²)。国際決済のサービスを提供するために、中小の銀行はアカウントにあらかじめ資金を蓄えるか、またはコルレス銀行との間に与信枠を設けなければなりません。コルレス銀行は、自行またはパートナーシップを通じて、海外の現地通貨アカウントへ国際決済するための流動性を供給します。この仕組みにより、小さい代理銀行はいろいろな通貨それぞれの外国他店預けを維持する必要がなくなる一方、しばしば多くのコルレス関係を持つ必要が出てきます。外国他店預けとは、国内銀行が外国に持つその国の通貨建ての銀行口座のことで、通貨間決済を容易にするために使われます。コルレス銀行業務は、国境を越えたグローバルな決済ネットワークが存在しなかった20世紀初中期に当座しのぎの解決策として登場しました。国際決済の需要が高まるにつれて、このシステムは、特に低額の決済の場合、

1 Experian社「Does Valid Bank Account Data Matter?」

2 Ripple analysis: 「World Trade Organization, International Trade Statistics 2014」「Institute of International Finance, Aggregate Capital Flows 2014」「Federal Reserve Financial Services, CrossBorder Payments 2015」参照

コストがかかりすぎ、非効率的であることがわかってきました。具体的に言えば、このシステムには元々以下の4つの問題があります。

- 1. アクセス:** ほとんどの場合、金融機関が国際決済サービス提供のために世界中に資金を配置することにはコストがかかりすぎるため、グローバルコリドーにアクセスを持つために少数のコルレス銀行に依存することになります。アクセスが限定されることは、外国為替、料金、流動性の競争力を失うことに繋がります。
- 2. 確実性:** 何組もの仲介銀行が、資金決済と直結していないメッセージをリレーして決済を廻しています。間違いが起りやすいポイントが多数あることや、手続きの始めから終わりまでの不透明性が原因で、システムはしばしばエラーを発生させたり、プロセスに思いがけない時間がかかったり、資金引き渡しที่ไม่確実になったりします。更に、銀行は個々の取引や流動性ポジションに対して十分な可視性が持てません。
- 3. スピード:** 国際決済は、為替コリドーに左右され、プロセスに1週間もかかる場合があります。取引の各区間で、被仕向銀行の元帳が”オンライン”であることが必要となります。関係する当事者が多くなればなるほど、当事者間に時差がある場合は特に、取引清算に時間がかかります。
- 4. コスト:** 銀行は、財政業務、決済処理、流動性、外国為替やコンプライアンスに関わるかなりのコストを負担しています。



上記の国際決済の例では、米国の銀行が日本の銀行に送金しています。米国の銀行は現地のコルレス銀行にACHまたはRTGS (即時グロス決済) 振替を行います。米国のコルレス銀行は日本のコルレス銀行に外国他店預けを持ち、この取引のための外国為替を供給します。日本のコルレス銀行は、米国のコルレス銀行の外国他店預けから資金を引き落とし、ACHまたはRTGS振替を通じて受取銀行にクレジットします。

流動性やコンプライアンスのコストが上昇し、収益が挙げにくくなるに従って、最大級のグローバルな銀行でさえ、選定した為替コリドーから撤退していています。³ そうなると、これらのグローバルなマネーセンターバンクに依存している、より小規模な金融機関にとってコストは更に上昇し、コリドーへのアクセスは更に悪くなります。その結果、送金などの低額決済の需要はかなりある⁴にもかかわらず、銀行がそのサービスを提供すること自体が経済性に見合わないか、提供したとしてもカスタマー獲得は望めないようなものであるか、あるいはカスタマーが満足できない結果になってしまうかのいずれかとなります。例えば、2009年の世界銀行の調査によれば、銀行は低額の送金に対して平均12%の料金をチャージしています⁵。商業が益々グローバル化し、モノのインターネット (Internet of Things、IoT) が走り出すにつれ⁶、低額決済の需要は更に高まり、新しい送金コリドーや、デバイス間の小額決済など新しい低額決済の使用例が出現し、銀行はこれらのサービスの提供に備える必要が出てきました。

ソリューションとしてのデジタル資産

デジタル資産とは、暗号で保護されたトークンが価値を保有し、2者間で中央清算機関無しにやり取りができるというものです。清算機関のいない資産なので、たくさんの銀行口座を開いて維持するといった、高額な業務コストをかけずに、より簡単にまた必要に応じた拡張がよりしやすい外国為替の流動性を供給することが可能になります。

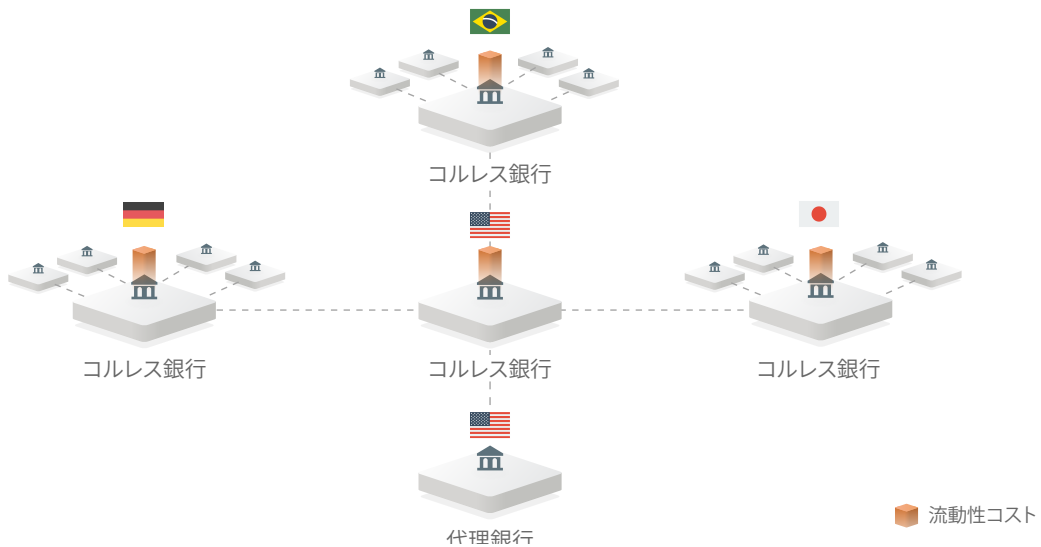
歴史的には、コルレス銀行は世界中のローカルな銀行口座にいろいろな通貨を持つことによって、グローバルな決済に流動性を提供してきました。グローバルな決済の独占的な流動性供給者として、コルレス銀行は、代理銀行に対し、スプレッドに上乗せをし、プロセス料金をチャージします。銀行がたくさんの口座に様々な通貨を維持するには、それぞれの口座に最小限度額を維持しなければならない上、完全に正確な予想はできないため実際に必要と思われる以上の資本を準備しておくので、かなりのコストがかかります。このように口座の最小限度額を満たした上に準備金として保たれる資金は、銀行にとっては、流動性あるいは資金コストと呼ばれ、無駄に縛られている資本など、機会費用を代表するものです。

3 CNBCニュース「Deutsche Bank to shed 35,000 jobs, exit 10 countries」2015年10月29日

4 BCG (The Boston Consulting Group)「Global Payments 2015: Listening to the Customer's Voice」

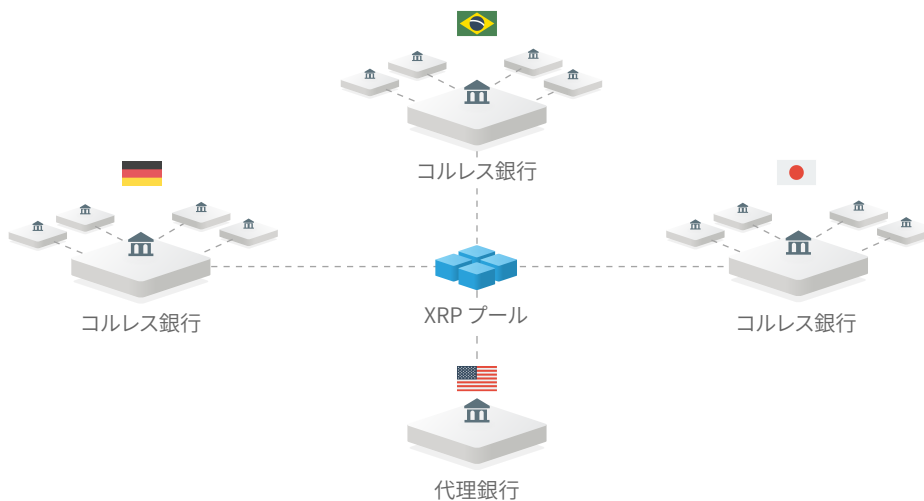
5 The Economist「Remittances: Over the sea and far away」2012年5月19日

6 Accenture「Driving Unconventional Growth Through the Industrial Internet of Things」2015年



初めて、デジタル資産によって、オンデマンドの流動性が供給され、財務や決済業務、流動性とバーゼル III 準拠に関連するコストが大きく削減され、世界中どこでもリアルタイムの価値交換が可能になります。XRP (リップルコンセンサスネットワーク固有のデジタル資産) は、このような機能を提供し、どの2通貨間の組合せでも流動性をサポートできます。XRPは、コルレス銀行システムに比べ参入の障壁が少なく全体的に摩擦の無い形で、世界中どこでも価値の転送を可能にします。

世界中に現地通貨を外国他店預けにする代わりに、取引の当事者 (銀行または銀行を代行する第三者マーケットメーカー) はXRPを自分の貸借対照表上に維持することができ、他のどんな通貨とのマーケットメイクにも使うことができます。このレポートに記載している分析内容は、自行の流動性をXRPに供給している代理銀行のためのものです。



多くの連携していない外国他店預けとなっている通貨を、XRPプールに流動性を統合することによって、代理銀行は同量の国際決済サービスを提供するのに配分する流動性を少なくすることができます。なぜなら、

- 銀行は自国の通貨の他には、XRPの口座だけを維持すれば済みます。
- 銀行は、決済債務の最大見込額のサービスをカバーするのに十分なXRPさえ手元に持っていればよいことになります。
- 本国通貨とXRP間で直接マーケットメイクをすることにより、銀行は仲介者の数やスプレッドの上乗せを最低限に抑えられます。

USD (USD) やユーロ (EUR) のように換金性の高い通貨は、これまで取引をブリッジする媒介通貨として機能してきました。しかし、流動性プールを持ち、様々な通貨をマーケットに提供するだけの規模の経済力を持っているのはほんの数行のコルレス銀行だけであり、その結果、為替レートの価格競争が制限されています。そのような流動性を持つために、代理銀行は手数料を払い、業務用口座を維持し、それらの口座に縛られる資本を機会費用と見なさなければなりません。一方で、XRPの場合は清算機関コストが全くかかりません。

世界共通の媒介資産がもつ経済的意味

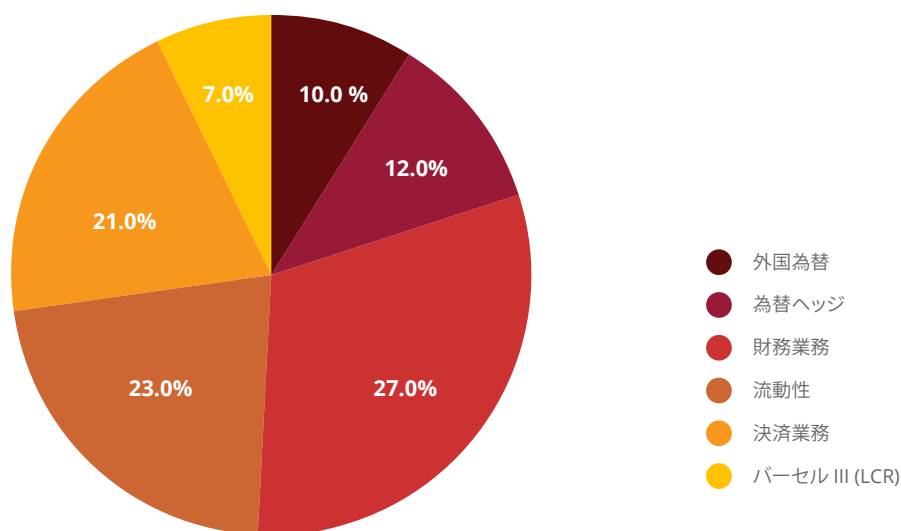
銀行には現在、国際決済をプロセスするために、かなりのインフラストラクチャーコストがかかっています。リップルとXRPを採用すれば、銀行は以下のコストを排除あるいは軽減することができます。

- **外国為替:** 卸市場で機関レートでの通貨ペア売買のためのスプレッドコスト。このスプレッドとは、銀行の貸借対照表の不換通貨間、あるいは不換通貨とXRP間のものです。XRPが使われる場合、モデルでは、銀行が貸借対照表上にXRPを維持して外国為替取引に自行で流動性を供給していると見なします。第三者マーケットメーカーを使うことも可能です。
- **為替ヘッジ:** 世界中に外国他店預けとなっている様々な通貨のヘッジ費用。

- **財務業務:** 口座の最小限度額を維持するための資金、数々の口座で通貨や清算機関を管理するための一般費用、そして時折それらの口座間でローカルにまた国際的に現金のリバランス⁷を行う費用。
- **流動性:** 流動性コストには、国際電信送金がプロセスされる間 (通常2日間) 宙に浮いた状態で動かせなくなる資産のコストと、ローカルな他店預けに資金を配するための時間 (地域差はあるが通常1日) という2つの要素があります。流動性コストは、拘束される資本の時間加重平均額に対して使われた資金コストとして計算できます。
- **決済業務:** 例外やエラーを取り扱うための人員と現地での諸費用などの、人手による介入のためのコスト。
- **バーゼル III (LCR - 流動性カバレッジ比率)⁸:** 仕向機関が、決済処理期間中の与信に対して低利子で高品質な流動性資産 (申請中のバーゼル III 規制に指定されている) を保有するのにかかる機会費用。

年間120億ドルの決済を行う典型的な代理銀行⁹の場合 (5つのコリドー、毎月157,000件の取引、国際取引の世界平均取引額6,300ドル)、資本コストを6%¹⁰とすると、コストの内訳は以下ようになります。

国際決済サービス: コスト内訳



⁷ 現金管理は、外国他店預けに固定されている資産の流動性コストとは区別され、SWIFT (Society of Worldwide Interbank Financial Telecommunication) を通じた取引コストに付随する。

⁸ バーゼル III 関連のコスト削減は司法管轄区域によって異なり、各機関に特有のLCR (Liquidity Coverage Ratio - 流動性カバレッジ比率) 条件適用の方法によっても異なる。理論上の30日間の資金流出に対するLCR算出により、コストは不変の可能性があり。リップルによって資金が拘束される時間がゼロになっても、情報不足の国際決済にそれ以降の30日が費やされればコストは同じになる。進行中の規制改革の動向によって、このモデルでの他の検討事項にも間接的な影響が起こりうる。

⁹ ここでの代理銀行の定義は、国内や海外のコルレス銀行に外国他店預けを保有するTier 3の銀行、である。

¹⁰ 参照資料「Citi GTS processed \$3 trillion in daily transactions in 2011」
<http://www.citigroup.com/citi/investor/data/p110202a.pdf?ieNocache=832>

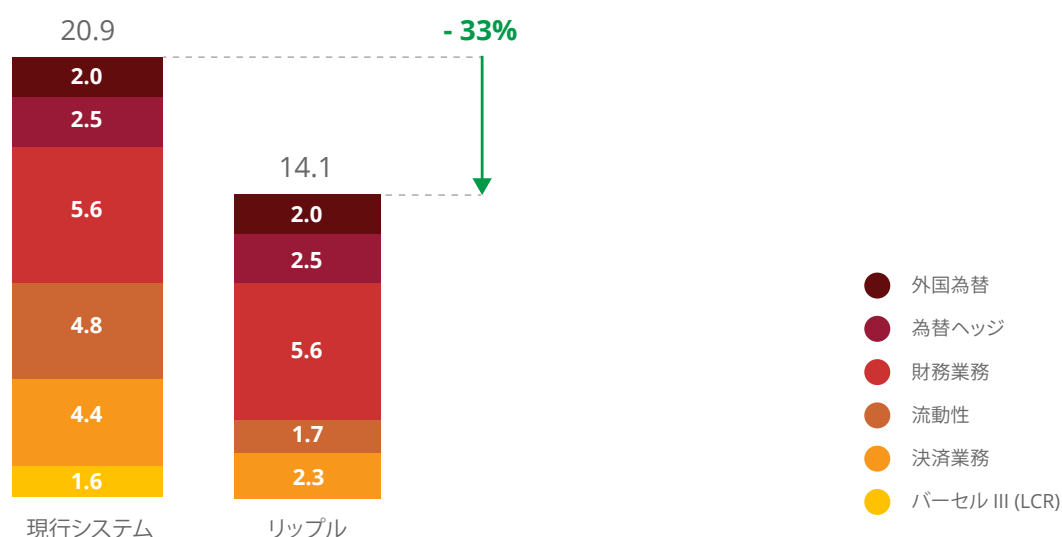
XRPを世界共通の媒介資産として使うことがコストに及ぼす影響を調べるには、まずXRP無しでリップルを使った場合に可能なコスト削減を数値化してみましょう。

リップル使用による制度上のコスト削減

現在、清算の遅延が起きると、銀行には高額な流動性コスト、決済処理コストや業務コストがかかります。リップルを使えば、我々の代理銀行は清算遅延を最小に抑えて33%のコスト削減が可能になり、国際決済量に対し全体で6.8 bps¹¹も抑えられます。

国際決済インフラストラクチャーコスト

世界平均コスト：決済量に対し20.9 bps



具体的には、リップルにより以下のようなコスト効率の改善が可能になります。

- **流動性:** リップルなら、国際区間の”宙吊り”時間 (2日間) が無くなります。外国他店預けの資金供給時間 (1日) はそのまま残ります。全体で、リップルは流動性コストを65%削減します。

11 リップルコスト分析 2016年、年間決済量を基準とし、現行の銀行業務・コンサルティングパートナーが精査

- **決済業務:** ローカルの諸経費は残るものの、リップルが、清算に関連する例外や取引エラーを扱う人員コストを大きく軽減し、決済業務コストの48%を削減してくれます。例外やエラーの減少は、リップルの通貨間清算ソリューションによって実現されたコミュニケーションと帳尻合わせの改善に起因するものです。¹²
- **バーゼル III (LCR)¹³:** 国際区間での資金の拘束時間が無くなったため、バーゼル III 関連のコストは99%も削減できます。

年間120億ドルの決済を行う代理銀行 (5つのコリドーで平均取引額6,300ドル¹⁴) の場合、リップル導入の初期コストは 保守的に 見積もって1千万ドルとなり、そのコスト回収期間は15ヶ月以内となります。¹⁵ リップルの導入費用は、銀行の規模やインフラストラクチャーによって異なりますが、導入に関連する銀行の経費節約は、決済量のより多い大規模銀行の場合のほうが速く実現され蓄積されるので、該当するモデルによってコスト回収期間も比較的短くなります。

リップルとXRPの使用による制度上のコスト削減

ではここで、同じ代理銀行がリップルと媒介資産XRPを一緒に使った場合の経費削減を数値化してみましょう。以下のコストモデルでは、同じ代理銀行が、リップル導入後、決済関連の流通高の50%をXRPに両替し、XRP自体を保管していると見なします。銀行は、自行でXRPの調達と保管をしてもよいし、第三の流動性供給者と契約を結ぶこともできます。為替ヘッジは、新しい資産である XRPの変動率が通常より高くなる可能性を受けて、初期に発生し、かつ短期間で 増大する唯一のコストです。XRPの使用が増えるにつれて、変動率は落ち着くことが予想されています。

12 リップルの企業向け通貨間清算ソリューションについての詳細は、以下URL参照。
https://ripple.com/files/one_pager_cc_settlement.pdf

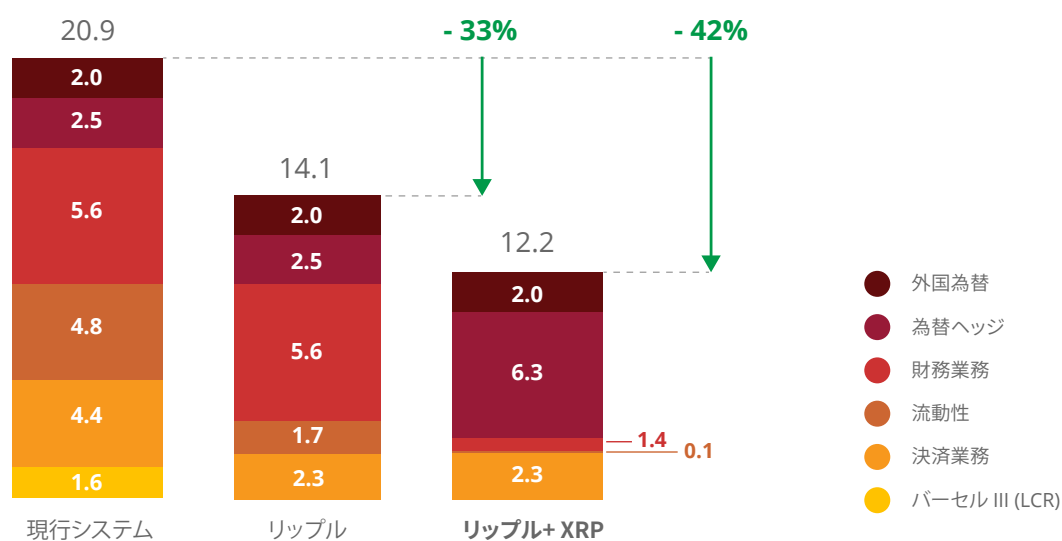
13 As mentioned, Basel III savings are subject to jurisdiction- and institution-specific implementations, and overall costs may be the same due to treatment of the 30-day window.

14 BCG「Global Payments 2015: Listening to the Customer's Voice and SWIFT」
<https://www.swift.com/aboutus/swiftintraffickingfigures>

15 コストの見積額には、リップルのベンダー費用、銀行の社内導入コストが含まれる。

国際決済インフラストラクチャーコスト

世界平均コスト：決済量に対し20.9 bps



XRPを使うと(初期に高い変動率が予想されても)、代理銀行は、現行のシステムに比べて42%の経費削減、国際決済量に対し8.8 bps¹⁶を抹消することができます。リップルとXRPを使うことで、国際決済のコスト構造のその他の局面を小さく圧縮することができます。

- 流動性:** XRPを使うと外国他店預けを保持する必要がなくなるため、重複している流動性コストがXRPの口座一つに小さくまとめられます。¹⁷ XRP無しでリップルを使う場合に比べ、リップルとXRPを使う場合、銀行は決済義務の大きさに応じてに必要なだけのサポートができるRTGS (即時グロス決済)システムとXRP両替にアクセスがありさえすれば、外国他店預けの口座に資金供給をするための時間を更に最高1日削減することができます。関連する流動性コストを99%まで削減できます。銀行は、最大の決済を扱うのに十分なXRPを貸借対照表に保有し、リアルタイムの両替に必要なだけ注ぎ足すことができます。
- 外国為替:** XRPの流動性が高まり、スプレッドがどんどん狭くなるにつれても、我々のモデルのFXスプレッドの正価は現在から変わることがないと想定されています。銀行は自行の貸借対照表に保有されているXRPに対して、マーケットメイクをするものと想定されます。

¹⁶ リップル コスト分析 2016年、年間決済量を基準とし、現行の銀行業務・コンサルティングパートナーが精査

¹⁷ 流入してくる決済のための流動性準備金は場合によっては仮想クレジットによって実行されるが、LCRが、これらの限度無しとの与信枠に対してHQLA (High-Quality Liquid Assets - 高品質流動資産) での追加カバレッジを義務付ける場合もあり、このモデルではその部分は考慮されていない。

- **財務業務:** XRPの使用により外国他店預けをする必要がなくなるため、銀行の現金管理や口座維持を単純化して、そのコストを74%も削減できます。¹⁸ 保管している通貨の種類が減るに従って、不換通貨管理のための業務諸経費も減少します。外国他店預け口座をたくさん持っている銀行ほど、財務業務面での費用削減が大きくなるでしょう。
- **決済業務:** リップルを使ってもこのコストは変わりません。ローカルの諸経費や清算以外の問題での取引エラーにまつわるコストは相変わらず残ります。
- **バーゼル III (LCR):** リップルが既に"宙吊り"期間を最小限にしているため、XRPの使用によってバーゼル III 関連のコストが変わることはありません。
- **為替ヘッジ:** 新しく、変動性が大きい可能性がある資産をヘッジする必要があるため、為替ヘッジ面の初期コストは高くなるかもしれません。このモデルでは、換金しやすい不換通貨の場合に現在かかっているヘッジコストの5倍の費用がかかると見なしています。ヘッジコストは時間が経過すると共にXRPの流動性に高まり改善されるでしょう。すべての銀行がヘッジすることを希望するとは限りません。

年間120億ドルの決済を行う代理銀行 (5つのコリドーで平均取引額6,300ドル¹⁹) の場合、リップル導入の初期コストは保守的に見積もって1千万ドルとなり、そのコスト回収期間は11ヶ月強となります。²⁰ 上記の通り統合費用は、銀行の規模やインフラストラクチャーによって異なりますが、関連する銀行の経費節約は、決済量のより多い大規模銀行の場合のほうが速く実現し蓄積されるので、該当するモデルによってコスト回収期間も比較的短くなります。

想定モデル

価格はバリューチェーン内の各参加者が決めるので、このモデルではマージンは考慮されていません。リップルは、マーケットメーカー向けにXRPのプログラム流通を始める予定で、マーケットメーカーはそれを使って通貨間取引の спреッドを狭めることとなります。このXRPの奨励プログラムは、XRPを使う取引の спреッドを狭めることが予想されます。更に、コンプライアンス (AML/KYC - Anti-MoneyLaundering/Know Your Customer) 関連のコストは新しい清算メカニズムでも変わらないため、モデルでも不変としています。調達やコンプライアンスを含むXRP保管のための初期設定コストは、このモデルには考慮さ

¹⁸ 外国他店預けは無くなっても、銀行はコンプライアンスや業務要件を満たすために相互の関係管理契約を維持しなければならない。

¹⁹ BCG「Global Payments 2015: Listening to the Customer's Voice and SWIFT」
<https://www.swift.com/aboutus/swiftintraffictfigures>

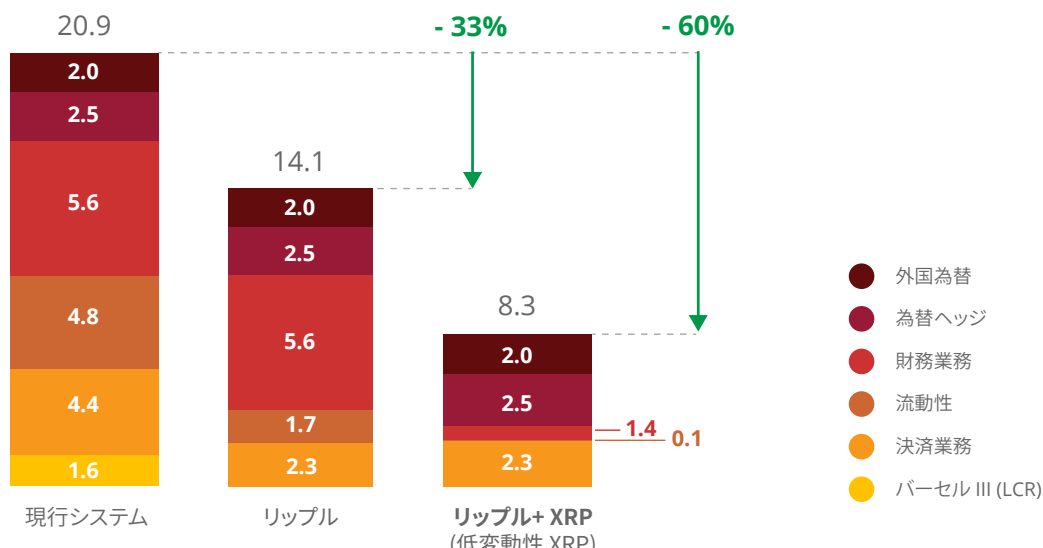
²⁰ コストの見積額にはリップルのベンダー費用、銀行の社内導入コストが含まれる。

れていません。コンプライアンスの要件を考慮する際、デジタル資産では、全面的に規定の監視や法執行のための追跡が可能です。

このモデルでは、初期に高い変動性をもつXRPをヘッジするコストを多めに想定しています。しかし、XRPを金融機関が保有してアクティブに取引すれば、XRPの変動性は激減し、ヘッジのためのコストも大きく減少します。変動性の低い状態で、XRPの変動性が、流動性のあるグローバルな通貨バスケットの変動性と同じであると想定した場合、コストは現行のシステムに比べて更に3.8 bps (システム全体で100億ドル)²¹または60%抑えることができ、変動性の低いXRPによりシステム全体では年間330億ドル以上の経費節約が実現することになります。

国際決済インフラストラクチャーコスト

世界平均コスト：決済量に対し20.9 bps XRPの変動性が低いことを想定



奨励を加速する仕組み

銀行は、XRPの価格に関わらず、ヘッジによってXRPが供給する到達範囲とリアルタイムスピードを利用することができます。「[リップルでネットワーク効果を生み出す](#)」の中で、我々は、XRPをプログラマ的に流通させて、通貨取引や決済でより良いスプレッドをオファーすることで使用を奨励することに言及しました。これから始まるこの奨励プログラムが、

21 リップルコスト分析 2016年、年間決済量を基準とし、現行の銀行業務・コンサルティングパートナーが精査

提供サイズ、未払いの時間やスプレッドに対して報償を与えることにより、世界共通の媒介資産としてのXRP使用を加速します。

奨励プログラムが、XRPに対して当座的に値段をつける流動性供給者にリベートを与え、マーケットメキングでのXRPの採用を刺激して、その結果、新しい資産に対するスプレッドが時とともに減少するのを助けます。この奨励により、マーケットメーカーにとっての変動性リスクが相殺され、XRPのアルゴリズム的な流通スケジュールが供給されます。XRPの採用と使用が増えるにつれて、その流動性も上昇し、価格も安定します。

他のデジタル資産の多くは、匿名の取引者や検証機能モデルの上に構築されています。その結果、それらのシステムには、ネットワークセキュリティのために多額な資金が必要となり、通貨発行特権でしかそれを支払うことができません。BitcoinやEthereumネットワークのマイニング収益の圧倒的大部分がエネルギーや設備コストの支払いに使われています。更に、そういったネットワークではアルゴリズムが検証機能を選ぶため、金融の健全性とコントロールの面で良くない結果を生んでいます。Bitcoinの現在の検証機能の分布もその一例と言えます。²²

これらとは対照的に、XRPを動かしているリップルコンセンサスネットワークでは、ステークホルダーが自分の検証機能を選ぶので、地政学的にもっとバランスのとれた分布を持つ、信頼される検証機能として立証された制度になっています。²³ そのため、リップルコンセンサスネットワークの安全を守るコストはもっと安く、通貨発行特権は、流動性の奨励プログラムを通じて流動性を牽引するためにリダイレクトすることができます。リップルコンセンサスネットワークの通貨発行特権は、流動性供給者が変動性リスクのコストをカバーすることに向けてことができ、XRPには制度上のネットワーク効果を牽引し、価値のインターネットで世界共通の媒介資産として機能するための条件が揃っています。

結論

リップルは、グローバルに伸びようとするすべての金融機関にとって、説得力のある長期的な価値提案をお届けします。インフラストラクチャー技術として、リップルは、銀行が、選択的に第三流動性供給者の競争力のあるマーケットから調達しながら、瞬時に直接世界中のほかのどんなパートナー銀行とでも取引することを可能にし、資金受け渡しの初めから

22 本レポート印刷の時点で、中国の4つの最大のマイニングプール (F2Pool, Antpool, BW, BTCChina)がbitcoinのハッシュレートディストリビューションの少なくとも70%を占めている。

23 The Ripple Protocol Consensus Algorithm, 2014.

終わりまでを可視化して確実性をもたせることができます。リップルとXRPを一緒に使えば、清算リスクを最小限にし、銀行は世界中に外国他店預けをする必要がなくなり、以前にはなかったような低コストでの清算が可能になります。

具体的に言えば、リップルは、流動性や決済業務のコストを年に6.8 bpsまたは180億ドル²⁴減らすことができます。リップルとXRPを一緒に適用すれば、流動性や財務業務のコストが更に改善され、全体で年に8.8 bps または230億ドルの節減に繋がります。²⁵ XRPの変動性が世界の通貨バスケットの変動性に近づくにつれて、コスト削減は12.6 bps または330億ドル²⁶にまでなりえます。更には、銀行が世界的にリップルを採用するようになり、流動性コストが抹消されると、国際取引の限界費用をゼロに近づけることが本当に可能になってきます。厚みのある市場の達成を加速してXRPの変動性を抑えるために、リップルは近い将来、XRPの奨励プログラムを導入し、XRPを通じて流動性を供給するマーケットメーカーに対してアルゴリズム的にリベートを与えていきます。

このレポートでは、国際決済にフォーカスを当てましたが、リップルとXRPは、世界の金融システムのあらゆる領域で、同様なコスト削減や担保の排除のメリットを提供します。金融安定が特に密接に関連する分野では担保が使われることが増えてきました。買い戻し特約・リバースレポの対応や、金融派生商品市場での清算機関リスクを相殺したり、決済および清算システムでの与信リスクを最小限にしたりするために、担保口座に何兆ドルもの資金が閉じ込められています。一例を挙げれば、100兆ドル超えの未精算利子率スワップの市場で、2014年にはOTC精算機関のリスク相殺のため5兆ドルもの担保が必要とされ、精算済み金融派生商品の預託金は4,550億ドルにも昇りました。²⁷

国際決済のサービス提供のためにコルレス銀行が持つ過剰に重複した外国他店預けをXRPのプールにまとめることが可能なと同様に、金融機関は、いろいろな市場に参加するために必要な担保口座をとりまとめて、XRPのポジションひとつにし、一箇所で他のすべての金融手段に対する相互交換の場を提供することができます。そうなれば、リップルの技術は、取引がシステム間を移動する際の清算リスクや帳尻合わせのコストを削減することができ、年間に何十億ものドルを経済圏に解放することによって金融の安定性が高まるでしょう。

24 XRPなしのリップル単体で、年間国際決済量26.5兆ドルに対する6.8 bps (basis point spread) の節約を数値化 (BCG「Global Payments 2015:Listening to the Customer's Voice」)

25 リップルとXRP両方で、年間国際決済量26.5兆ドルに対する8.8 bpsの節約を数値化 (BCG「Global Payments 2015:Listening to the Customer's Voice」)

26 リップルと低変動性のXRPの場合、年間国際決済量26.5兆ドルに対する12.6 bpsの節約を数値化 (BCG「Global Payments 2015:Listening to the Customer's Voice」)

27 DTCC「The Impact of Margin Requirements for Non-cleared OTC Derivatives in the Fund Management Industry, January 2016」

結局、この新技術のすばらしい可能性は、ただ古いシステムから解放されて銀行が経費削減できることだけにとどまらず、新しいモデルやビジネスを全面的に実現可能にしてくれるものなのです。決済の分野では、リップルやXRPのような今までにないコスト効率やグローバルな領域を実現してくれる技術ソリューションは、グローバルな支払い、国際的なキャッシュプーリング、低額送金や小額決済などへの使用を、可能にするだけでなく収益を上げてくれるものにしてくれます。このようなビジネスモデルこそが、価値のインターネットの発展を爆発的に進めてくれるでしょう。

リップルについて

リップルは、グローバル決済ソリューションを提供します。これはつまり、現在情報が交換されていると同様に、世の中における価値の交換を可能にし、価値のインターネットを招来します。リップルソリューションは銀行が直接送金できるため、コルレス銀行を通す必要はなく、送金コストの低コスト化を可能にし、更に、リアルタイム取引決済を確実にします。世界中の銀行は、海外送金サービスを改善するため、また、価値のインターネットの基盤である金融機関やマーケットメーカーの世界中に広がっていくネットワークに加わるためにリップルとパートナーシップを組んでいます。

リップルはサンフランシスコ、ニューヨークとシドニーに事務所を持つベンチャー企業。価値のインターネットの主義者として、[連邦準備制度理事会のFaster Payments Task Force](#)に所属し、また[W3CのWeb Payments Working Group](#)の共同議長を務める。

お問い合わせ先

法人向けXRPの販売、またはマーケットメーカーに関するご質問はmm@ripple.comまでお問い合わせ下さい。

XRPについての詳細はripple.com/xrp-portalをご覧ください。

Ripple
300 Montgomery Street
Suite 1200
San Francisco, CA 94104
USA